

中野区教育委員会会議録 平成22年第33回定例会

○開会日 平成22年11月5日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前10時00分

○閉 会 午前10時59分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員長職務代理	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員(7名)

教育委員会事務局次長	合 川 昭
副参事(教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治
副参事(学校教育担当)	古 屋 勉
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(生涯学習担当)	飯 塚 太 郎
中央図書館長(統括)	小谷松 弘 市

○担当書記

教育経営分野	落 合 麻理子
教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	飛鳥馬 健 次
委 員	山 田 正 興

○傍聴者数 2人

○議事日程

〔議決案件〕

日程第1 第38号議案 中野区教育財産管理規則の一部を改正する規則

日程第2 第39号議案 文化・スポーツ施設の指定管理者候補者の決定及び指定手続の  
依頼について

〔報告事項〕

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 10 / 22 研究発表会（中野神明小学校）について
- ・ 10 / 23 中野区立小中学校特別支援学級連合運動会について
- ・ 10 / 23 学校公開（新山小学校）について
- ・ 10 / 27 中野区立小学校連合運動会について
- ・ 10 / 29 向台小学校訪問と小・中学校長との意見交換会について
- ・ 10 / 29 研究発表会（西中野小学校）について
- ・ 10 / 29 就学時健診（谷戸小学校）について
- ・ 10 / 30 大和小学校開校70周年記念式典及び祝賀会について
- ・ 11 / 1 中野区教育振興会教育功労者表彰式について
- ・ 11 / 1 第三中学校での性教育に関する講演会について
- ・ 11 / 3 帝京平成大学起工式について
- ・ 11 / 4 日本学校保健会について
- ・ 11 / 4 中芯会及び東京都退職校長会中野支部との懇談について

(2) 事務局報告事項

(なし)

中野区 教育委員会  
第 3 3 回定例会  
(平成 2 2 年 1 1 月 5 日)

午前10時00分開会

飛鳥馬委員長

おはようございます。

ただいまから教育委員会第33回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席でございます。

本日の会議録署名委員は、山田委員にお願いします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、日程に入ります。

<議決案件>

<日程第1>

飛鳥馬委員長

日程第1、第38号議案「中野区教育財産管理規則の一部を改正する規則」を上程いたします。

教育経営担当、よろしくをお願いします。

副参事（教育経営担当）

それでは、第38号議案のご説明をいたします。新旧対照表をごらんいただきたいと思っております。

中野区教育財産管理規則では、第18条第3項で、財産台帳の記入及び整理の方法につきまして、公有財産の規定により定める公有財産台帳整理基準の例によるというふうに定めてございます。この公有財産台帳整理基準ですが、公有財産規則第48条第3項の規定により副区長が定めるものと規定されてございましたが、組織改正に伴いまして、経営室長が定めるものと改正されましたので、その改正にあわせた改正を行うものでございます。

施行時期は公布の日でございます。

説明は以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、ただいま上程中の議案につきまして、質疑がありましたらお願いします。

大島委員

経営室長というのは、区の職制上はどんな立場の方なのでしょうか。

副参事（教育経営担当）

区では、経営本部ということで、政策室、経営室、管理会計室と三つの室を定めてござ

いまして、職層上は部長級の職員が経営室長を務めてございます。

飛鳥馬委員長

ほかにはいかがですか。よろしいでしょうか。

質疑がなければ、質疑を終結いたします。

それでは、挙手の方法によって採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第38号議案を原案どおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(全員賛成)

飛鳥馬委員長

全員賛成ですので、原案どおり決定いたします。

<日程第2>

飛鳥馬委員長

次に、日程第2、第39号議案「文化・スポーツ施設の指定管理者候補者の決定及び指定手続の依頼について」、上程をいたします。

議案の説明をお願いします。

副参事（生涯学習担当）

第39号議案「文化・スポーツ施設の指定管理者候補者の決定及び指定手続の依頼について」、ご説明をいたします。

この内容につきましては、既に10月8日の教育委員会に報告済みでございますので、若干重複すると思えますけれども、現在の文化・スポーツ施設の指定管理者の指定管理期間が平成23年3月に切れるということで、次の指定管理者を募集するものでございます。これは、3月に募集要項の発表をいたしまして、4月に公募説明会、5月に応募の締め切り、6月に第1次審査、7月に第2次審査、それから、財務診断を経まして指定管理者候補者の決定をしたいと。これにつきまして、教育委員会でご決定をいただいたところに指定手続を依頼するというものでございます。内容につきましては、次面をごらんいただきますと、現在の指定管理者と結果的には同じということでございますが、このような候補者になってございます。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

ただいま上程中の議案につきまして、質疑がありましたらお願いします。

高木委員

この議案、指定管理者候補者の決定はわかるのですが、手続の依頼というのは、教育委員会がどこに依頼するということなのですか。

副参事（生涯学習担当）

区長に依頼するということになります。

高木委員

了解しました。

飛鳥馬委員長

よろしいでしょうか。

質疑がございませんので、質疑を終結いたします。

それでは、挙手の方法によって採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第39号議案を原案どおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（全員賛成）

飛鳥馬委員長

全員賛成ですので、原案どおり決定いたします。

以上で議決案件の審査は終了しました。

<報告事項>

飛鳥馬委員長

次に、報告事項に移ります。

<委員長、委員、教育長報告事項>

飛鳥馬委員長

まず、委員長、委員、教育長報告ですが、私のほうから報告いたします。

先週は、学校訪問等がありましたので大分前の報告からになりますが、22日の金曜日に神明小学校に伺いました。神明小学校は、体力向上等研究校ですが、授業もなかなか工夫されておもしろい授業がたくさんあったなと思います。私たちの関心のあるところでは、芝生を使って、素足で子どもたちが伸び伸びと走り回っていると言いますか、鬼ごっここと言ったらいいのでしょうか、子どもは低学年のうちから安心して走れると言いますか、できる、それを見させていただきました。あと、おもしろかったのは、2年生だったでしょうか、「うんこの授業」というのをやっけていまして、あれほど熱心にうんこの話を聞いたの

は初めてですが、色、形、健康状態を判断するうんちということで、なかなかおもしろいなということで聞いていました。

あとは、中日の元選手、NHKのスポーツキャスターになりまして、日曜のサンデースポーツにこのごろは出ている方の、講演会がありました。私が非常に感心したのは、講師が非常に苦勞されていて、23歳ぐらいになるまでほとんど芽が出なかったと言っているのだと思うのです。高校、大学、そして、NTTに入ってから初めて実績ができたのだと思うのですけれども、それからプロから声がかかる。それまでは、お父さんが病気になられて大変な苦勞をして、お母さんやお姉さんが内職をしながら学校へ行ったと。学費が払えないので、学費をとられないところに行きたいということで、監督さんにも随分お世話になったようすけれども、それでも頑張れば何とかなると、そういう感激するような話でした。

翌23日土曜日は、特別支援学級の運動会が中野体育館で行われました。小学校5校、中学校3校と、134人の子どもたちが集まって毎年やっているわけです。去年はインフルエンザのために中止になったということがありまして1年あきましたが、ラジオ体操等、みんな大変そろって集中できてすばらしい運動会でした。何と云っても、通常学級の中学生在がボランティアに来ていたり、一般の方も多いのですけれども、たくさんのボランティアのお世話になりながらやっている運動会ということにはよくわかりました。来賓の方も非常にたくさんで、盛り上がっていたいい運動会だったと思います。

27日水曜日は、小学校の連合運動会ということで、私は大和小と上鷲宮小学校に伺いました。気持ちのせいでしょうか、昨年よりも子どもたちの走りがしっかりしてきたかなど。体力が少し向上したと言われてはいますが、たまたま私の行った会場に目立つような児童が少なかったかもしれませんが、結構しっかり走れたし、メタボ的な子が目立たなかった。毎年何人かいるのですけれども、今回は余りいなかったような気がします。これも学校の体力向上の授業の成果かなというふうに思っています。

29日は、向台小学校で授業を見たり、第1ブロックの小・中学校の校長先生との意見交換をやったりしました。校長先生との意見交換では、主に小・中の連携のあり方について、そういう話がありました。その他、たくさんお話をいたしました。授業も、みんな落ちついてよく受けていたなと思います。久しぶりに1年生と給食を一緒に食べましたが、話していると、1年生ですから「この子はいつもぎりぎりに学校に来るんだよね」とか「僕、寝るの遅いの。これ、内緒だよ」とか、みんな内緒の話をしてしまうのです。チョコレートパンを毎日食べてくる子もいたり、いろいろなお子さんがいるなと思いました。子ども

たちとそんな楽しい時間を過ごさせていただきました。

午後は、西中野小学校の研究発表に伺いました。西中野小学校は、特別支援学級と、通常学級の子どもたち、交流がなかなかうまくいかないとか、通常学級にいる子どもたちの特別支援をどうするかということがありますので、ほかの学校では、そういう取り組みの数が少ないのかもしれないですね。そういうことで、先生方のご苦労のわかる研究発表でした。

それから、今月の1日、教育振興協会の教育功労者の表彰がありまして、そこであいさつをしてきました。今回、27名の受賞者で、小・中の校長先生、PTAの会長さん等が多かったのですが、特に私の目にとまったのは、乳児院の職員さんが3人。若い男の調理師さん1人と保育士さん、合計3名が表彰されて、苦労されている方で、なかなかそういう機会がないのでとてもうれしく思いました。

大変長くなりましたが、以上です。

山田委員、お願いします。

山田委員

私も10月22日になりますが、中野神明小の研究発表を見てまいりました。委員長から報告がありましたように、特に2年生は鬼遊びということではありますけれども、フラッグフットボールの年少版ということで、たしか2年生30名が6名ずつ5チームに分かれて、音楽が鳴るとゲームが始まったりというのがあって、子どもたちはかなりなれているようなところでした。子どもたちは、2年生という低学年ですけれども、ルールをわきまえたおもしろい取り組みで、はだしで芝生を駆け回っていて、楽しく授業に取り組んでいて、また、きちんとルールもわかっている、大したものだなというふうに感心をいたしました。

一方で、3年生ですか、鉄棒の授業をやっていたのですが、私たちが小学校、中学校のころは鉄棒はかなり人気がありまして、お昼を食べたら早く行かないと鉄棒はいっぱいになってしまっていたのですけれども、見ていますと、今、鉄棒が苦手な子が多い。落下する子も多いと聞いています。例えば、小さいときのボール投げとかをやっていないからかもしれないけれども、握力がないために鉄棒から落下するとか。基本的に、鉄棒というのは自分の身体に鉄棒をくっつけて演技しますよね。苦手な子を見ていますと、そういえば、鉄棒から離れていますよね。そこをきちんと指導しないと、幾ら補助器具を使っても、それは難しいのではないかなというふうに思います。大変かもしれませんが、先生方の指導力の違いもあるかも知れませんが、日ごろ、例えば、「このクラスは1学期は鉄棒



をやろうよ」という形でぶら下がるだけでも違うと思うのですけれども、そういったことを日ごろやっていないと、急に授業で鉄棒というのは難しいのではないかなと感じました。

たまたまきのうは城西地区の医師会のかかわりの中で、整形外科の先生と隣り合わせだったのですけれども、最近鉄棒から落下する子が多いとか、鉄棒を回ろうとしていて頭が落ちてしまったとか、そういうけがが多いので、「何でなんだろうね」という話が出て、「基本的に、鉄棒にぶら下がるとか、鉄棒を体にくっつけるということの会得ができていないからではないかな」と。今の先生方はいろいろな面での指導面が大変だと思いますけれども、指導にたけた先生もいらっしゃるわけですので、その指導をうまく受けながらやられたらいいのではないかなと思って、見て帰ってきました。

それから、27日は小学校の連合運動会がありまして、私は、桃園第二小学校で行われました桃園第二小、塔山小、白桜小の子どもたちの連合の運動会を、最初だけだったのですけれども見てきました。80メートル走ですが、ここでは、子どもたちの名前を一人一人呼ぶのです。「〇〇小学校〇〇さん、△△小学校△△君」。そうすると、応援団がわーっというわけですね。子どもたちは、そういった名前を呼んでもらえるという一つのうれしさもあるのかなと。ほかの会場では余りなかったように思うのですけれども、そんなことが印象深かったです。

その後、第3会場の谷戸小学校と桃花小の連合運動会に行ったのですけれども、特に桃花小学校は、この学年は前の仲町小、それから桃丘小から来た子どもたちが今の6年生に当たるのですが、みんな心を一つにしていろいろなゲームに取り組んでいました。一方、谷戸小にも仲町小からかなりの子どもたちが来てということで、みんな仲よくしながらも一生懸命白熱したゲームをやっていました。

それから、大縄跳びというのをやったのです。これは、6年生が全部で6チームぐらいに分かれたのですか、みんな2分間に大縄を何回跳べるか、それを3クールやって一番跳べたチームが勝ちと。要するに、混成チームですから、その場でお互いが協力しなければいけない。今までは二つの小学校ですけれども、一緒に力を合わせるということで、もしかしたら、中学になって一緒に机を並べる子どもたちもいるかもしれないということで、非常にいい取り組みかなと思いました。

リレーは、今、桃花小は体育館の工事のために運動場が非常に狭いのですね。ですから、カーブは桃花が速いけれども、直線は谷戸が速いというような印象を受けました。実は、来年からは谷戸小が耐震工事のために運動場が狭くなりますので、来年はカーブは谷戸が

強いのかなということでございます。こういった小学校連合運動会、恐らくほかの区ではないような取り組みではありますけれども、この谷戸・桃花という2校でやるのは今後どうなのかなと。連合ということになりますと、これから再編がありますから、組み合わせや、開催をどのようにしていくかなど考えていかなければいけない時期には差しかかっているのかなと思いました。でも、子どもたちは、最後の6年生として、学校の名誉のために、また自分のために一生懸命頑張っていて、また、保護者の方もたくさん応援に来ていただいて、風はちょっと冷たかったですけれども、いい一日になったなと思っております。

29日、私も同じように向台小学校を訪問し、先生方とのディスカッションをさせていただきました。向台小は、現在225名で、5年生のみ2クラスという比較的小規模化が進んだ小学校であります。7名の担任の先生ですけれども、1人が産休の代替ということもあって、非常に小規模ということで、先生方のモチベーションというのですか、マネジメントが大変なのだろうなという実感を受けておりますが、なかなか闊達な指導力のある先生も多くて、しっかりした授業が展開されておりました。

また、校長先生とのディスカッションの中では、今の子どもたちは自信がない子が多いので、いいところを見つけて、いかにそれを伸ばすかというところが大切なのではないかなということに学校がいろいろ苦勞されて取り組んでいるということでありました。また、家庭学習の取り組みについての質問に対しては、ある小学校の校長先生は、学年掛ける10分の家庭学習をきちんと義務づけて、それも評価してやっているというようなご意見もあって、学校はそれなりに取り組んでいるという姿が見受けられて、非常にいい会でございます。

その後は、今、各小学校において就学児健診が行われておまして、私も、谷戸小で行われた就学児健診に学校医として行ってまいりました。62名の子どもが来られまして、5年生が誘導して、歯科、眼科、耳鼻科、内科ということで回ってきていました。最近、就学児健診の間診票には、今までの子どもたちの生活の状況ですとか、予防接種歴とか、いろいろ書いてございますけれども、保護者の方がきちんとそれを書いていただくことができている、比較的スムーズにできたのではないかなと思っております。ただ、残念ながら、予防接種では、麻疹・風疹のMRの2期の接種が62名中22名が未接種だったので、「用紙が届いていて、3月まではかかりつけ医でただで受けられますからぜひ受けてください」ということの啓発をしてまいりました。

5年生も、来年6年生になって新入生を迎え入れるということでは、非常にいい場では

ないかなと思いました。

30日は、ちょっと個人的な話になりますけれども、私は千代田区立麴町中学校というところの20期生なのですが、同期会というのが開かれました。4年に1回やるのですけれども、その当時の麴町というのは、1学年500名で3学年。実は私たちの学年は1年生のときにクラスがえをしているのです。担任の先生に、どうしてクラスがえをしたのかを聞きましたら、予定していた人より多く来てしまって、1学期はたしか56名のクラス。56名ですと、後ろが目いっぱい、立錐の余地もないぐらいだったのを覚えております。ですから、私たちは1年生のときに1学期が終わったらすぐクラスがえがあって、校庭に突然プレハブができて、そこにだるまストーブが入ってというようなことを覚えています。500名で卒業しまして、今320人ぐらいの名簿がわかっていて、当日参加は102名ということでございました。ただ、公立とはいえ、この麴町中というのは非常に稀有な学校でして、千代田区民は500名のうちの70名、女子生徒が500名のうちの80名という非常にアンバランスでしたけれども、同期会などをやりますと、幹事は10クラス中6クラスは女性ということで、このころから女性が世の中でだんだん活躍している時代なのかなと思いました。千代田区でも5校あった中学校が現在は一橋と麴町の2校だけで、九段は九段中・高ということで別枠になっているということで、時代が変わったのだなというふうに思いました。

その中で、千代田区歌というのを私たちはみんなで歌った覚えがあるのですけれども、中野区歌というのがありますか。子どもたちは歌ったことはありますか。私たちは、催し物があると必ず、連合陸上などでも最初に千代田区歌を歌った。ということで、区というものに対して非常に意識づけがあったのかなと思って、懐かしく思いをはせながら歌ってまいりました。

11月1日は、中野第三中学校に招かれまして、性教育の講演、「生と性」の講演会を2年生95名を対象に行ってまいりました。これも内輪の話なのですが、来年4月に日本医学会総会というのが開かれます。国際フォーラムを舞台として4月からなのですけれども、その企画の中で、出前セミナーと言いまして、東京都民が10名以上集まって何か企画した場合には日本医学会のほうから講師料を出しますという企画がありまして、この性教育セミナーも手を挙げたものですから、日本医学会のほうからきちんと講師料を出ささせていただきました。全部で100の出前セミナーをやるということで、その4月にはビックサイトで博覧会をやるのですね。そのときに子どもたちにもぜひ来ていただいて、いろいろな展示を見ていただきたいと。そのPRも兼ねて、そういう企画でことしは行われました。

私のほうからは、今の性感染症の現状ですとか、少し難しいかもしれませんが、HPVのワクチンの話なども少しさせていただきながら、この間もちょっと紹介しましたけれども、『だいじょうぶだよ、ゾウさん』という絵本の中のゾウが、みずからゾウの国に行って亡くなるのだというところの話をして、子どもたちも死をどのように受け入れるのかということで、たまたま私の前にいたお子さんは、少し前におばあちゃまが亡くなって、そのおばあちゃまと一緒に過ごしたときのお話をちょっとしてくれましたけれども、「命」というテーマでいろいろ話すにはいい題材なのかなと思っております。

最後になりました。きのうですけれども、日本学校保健会の会議がありまして出席いたしました。学校の中で日本が世界に誇れるものとしては二つあるというお話がありまして、一つは給食ですね。給食制度を持っているというのは世界でも非常に珍しい国である。それをもとにした食育が展開されているというのは、世界から見ても非常にすばらしい取り組みだというのは認識されています。もう一つは、養護の教員がいるということ。世界では、日本が輸出した形で、韓国は養護教諭という制度があるのだそうですけれども、ほかの国はないようです。スクールナースという形で看護師さんが巡回で回ってくることはありますけれども、常勤しているというところはない。今の養護教諭の先生方は看護師さんではない方が多いですけれども、そういった意味で、子どもたちの体と心をケアする養護教諭がいるというのは日本独特の制度で、これは学校保健の管理の上からも非常にすばらしい制度であるということで、世界的には認められつつあるようでございます。

長くなりましたが、私からは以上でございます。

飛鳥馬委員長

大島委員、お願いします。

大島委員

重複する行事も多いので、それはちょっと簡単にご報告いたしますが、10月22日の午後、神明小学校で研究発表がありました。「育てよう健康な心と体」ということで体育の授業のテーマでございました。皆さんからもご報告があったのですけれども、フラッグフットボールを応用したような授業の学年と、あと、3年が鉄棒、5年がハードルというような種目もありまして、個々の授業の進め方とかについては山田委員のほうからもいろいろご意見があったりしたのですけれども、中野区では体育とか体力ということを非常に重視して、いろいろな学校で取り組んでいただいているということは大変いいことではないかなと思います。

それと、授業の後にご講演がありました。飛鳥馬委員のほうからもお話があったとおりののですけれども、大変に貴重な機会でございます、内容もとても興味深く楽しく聞かせていただきました。元プロ野球の一流選手だし、今、スポーツキャスターという華やかな職業についていらっしゃるし、体格もすごく大きくて、外見も格好いいしというところからの華やかなイメージと、ご自身がそれまでの人生で歩いてこられた生活を見ると、非常に貧乏で苦勞されたりとか、なかなか芽が出ないとか、そのギャップに大変驚きました。でも、頑張るご自身のいつも自分に言い聞かせていることは、とにかく今、自分にできる準備をするのだと。これはお父様の教えだということなのですけれども、「今できる準備をなさい」とお父様に言われていて、今自分ができる準備——準備というのはすごく具体的なことをイメージできる。「頑張りなさい」とかという抽象的なことではなくて、「今できる具体的なことをやりなさいよ」というふうに言われると、「じゃあ、〇〇の練習をしよう」とか、そういうふうに行動に起こせる、そういうことだそうです。準備をして、できることはやったと。あとはもう天命に任せるとか、そういうことで突き放すことができる、開き直れる、そんなようなお話もあって、大変参考になることも多かったですし、いいお話が聞けたなと思いました。

10月27日の午後は小学校の連合運動会に行きました。私も二つの会場を半分ずつ見たということでございます。新山小学校と向台小学校なのですけれども、これは6年生が出るので、6年生にとっては、学校もそろそろ卒業に近づいてきた時期に、非常に思い出深いいい機会になるのではないかと思います。みんながリレーに出ますし、みんなで綱引きということで、綱引きはみんな力を合わせてということですし、リレーも、それぞれバトンタッチしながら学校で一丸となってというような競技です。ふだん、ほかの学校と対抗するという機会はほとんどないわけなのですけれども、こういうところで学校への帰属意識といいますか、愛校心みたいなものも芽生えたりして、大変楽しい行事ではないかなというふうに感じました。

それから、10月29日ですけれども、皆さんとご一緒に向台小学校を訪問しまして、学校の様子を見たり、授業も見させていただきました。それから、その地域のブロックの小学校、中学校の校長先生に来ていただいて懇談をいたしました。これは、最近、我々教育委員会でやっている小学校と中学校、違う校種の先生たちと一緒に話すという試みの一環なわけなのですけれども、いろいろお話が出まして非常に有意義だったと思うのです。中1ギャップというようなこともありますけれども、中1ギャップにならないために、小学校の役割

とか、中学校の役割とか、その連携とか、そういうお話も出ました。それから、ふだん、勉強ということでは割とはっきりした評価をされたりする子というのがいるわけですが、それ以外の場面での子どもの能力を見出して、それを褒めてあげる、評価してあげるといような場面をつくろうといような校長先生方のいろいろなご努力の話もあって、大変いいことだなと。例えば俳句ですとか、いろいろなことをやっているというお話がありました。

それから、10月29日の午後は西中野小学校に参りました。通常学級での特別支援を要する子どもたちへの教育についての研究発表でございました。これは、今、各学校で最も大事になっている重要なテーマで、差し迫ったテーマでもあるわけですがけれども、事例の紹介もいろいろ入れながら、発達障害のある子どもさんとか、知的障害のあるお子さんとかを、どのようにその子に合った指導につなげていくかということのやり方について、いろいろな実践事例などがありまして、一生懸命、頑張っていていただいているなということを感じました。

10月30日には、大和小学校の70周年の記念式典がございまして、この式典に参加してまいりました。式典自体は大変厳かに、いい雰囲気が進んだわけです。印象に残りましたのは、最後のほうで、児童全員によるお祝いの言葉と合唱がありまして、ちょっと珍しいかなと思うのですが、この記念式典に1年生から6年生まで全部の児童が出席したのです。ですから、会場は来賓の方と子どもたちですごくいっぱいになってしまうぐらいだったのですが、その子どもたちが1年から6年生まで一緒に合奏したり、歌ったりしたのです。リコーダーとか鍵盤ハーモニカとかをそれぞれみんな用意して、分担して合奏したり。卒業生の方がつくってくださった『夢をのせて…』という歌がありまして、大変いい歌なのですけれども、これをみんなで歌って……。山田委員のお話みたいな1学年500人ということからすると、全学年でも300人いないので非常に少ないのです。時代のせいでしょうがないのですけれども、それでも子どもたちが全員心を合わせて歌うというのは本当に感動的な場面です、いい式典だったなというふうに思いました。

私は以上です。

飛鳥馬委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

10月23日土曜日、新山小学校の学校公開を見てまいりました。授業はどのクラスも非常

に良好でございました。新山小学校は、児童数203人、各学年単学級で6クラス、沼袋小学校の次に小さい小学校でございます。特に3年生の家庭科の時間、「魚の達人を目指そう」ということで、財団法人漁港魚場漁村技術研究所専門技術員の方が来まして、サケの大きいを見せて、あとはプロジェクターでいろいろな説明をされていて、例えば、「サケは白身魚ですか、赤身魚ですか」「見た目は赤いんですけども、実は白身なんですね」という話をして、子どもはすごく引き込まれて、非常に意欲的な授業をやっておりました。

また、3・4限では、1・2年生が中心になって、「楽しい秋まつり」ということで、近隣の未就学のお子さんも招いて、いろいろなお店をやって、例えば松ぼっくりでこまをつくったり、紙の帽子にドングリやススキをつけて秋の帽子屋さんとか、非常にかわいくて、何か地域祭りみたいな様子で非常によかったと思います。

私も教育委員になりまして、中野区内の小・中学校、幼稚園は全部回ろうと思ったのですが、結局、任期間際になってこの新山小学校でやっと最後でございます。先ほど山田委員からもお話しありましたが、小規模な学校さんは研究発表会とかなかなか受けづらいので機会が少ないのですね。ですから、最後が、小学校は新山小学校、中学校は二中さんかな。平日は仕事がありますので、どうしても後回しになってしまったところでございます。

それから、10月27日、連合運動会ですが、第5会場と第6会場に行っていました。第5会場は新井小学校で、野方小、上高田小、新井小、沼袋小なのですが、準備がちょっとばたばたしまして、準備運動を一緒にやったら、すぐに移動の時間になってしまいました。第6会場が江原小学校なのですが、江原小、江古田小、丸山小学校の3校で、江原小学校は第2校庭でやったのですが、3校の中ではちょっと狭いので、魔のカーブがあります。江原小の子はうまいのです。カーブに入る前にちゃんと減速してスローイン・ファストアウトで出るので、みんなカーブで抜かれるのです。3校で競い合って、男子で100メートルで一番早かった子は15秒1ですから、小学生としてはかなり速いですよね。なかなか満喫させていただきました。

それから、10月29日は、教育委員会で向台小学校の訪問をいたしました。授業は1時間しか見られなかったのですが、どの学級もなかなか工夫をした授業をやっていました。

あと、6年1組の教室を見たときにちょっとおもしろいなと思ったのは、いろいろな表彰があるのですね。朗読発表会MVP、毎日忘れ物ゼロ、漢字・字引早引き団体戦・個人戦、6年1組杯争奪ソフトボール大会優勝、第1回歴史新聞コンクール、みんなのMVP、

先生のMVP。忘れ物団体なんていうのは、忘れ物をしなければですから、勉強が余り得意ではない子もできるし、あと、運動が得意な子はソフトボールとか、先生が工夫して表彰している。これはなかなかいいなと思いました。

その後は、ブロックの小・中学校の先生との懇談会で、やはり率直な意見交換ができてよかったなと思いました。

10月30日は、大和小学校の70周年記念式典。式典のほうではごあいさつをさせていただきました。祝賀会は、一番よかったと思うのは、体育館の5分の4が卒業生の方というぐらい非常にたくさん来ていて、やはり70周年ですので、地元の方も多ということで、ここはすごく印象に残りました。オープニングでは、高円寺の阿波踊りに出ている花菱連が阿波踊りで入ってきまして、あと、アトラクションでは、大和おやじバンドと、あと、うみねこやの歌ですね。コーラスで、男性2人、女性2人ですか。あと、PTAサークルのコーラスもなかなかよかったです。ただ、アトラクションの大和おやじバンドは、私とほぼ同じ世代のところにはピンポイントですごくよかったのですが、同窓生で来た方は私より20から30くらい上の方なので、ビリージョエルとかビートルズというのはいま一つ反応が薄かったので、ちょっとかわいそうだったなと。午前、午後の式典も含めて、非常にアットホームでいい式典だったなと思います。台風の中、多くの方が参加してよかったと思います。

あと、やまと学級の子どもたちが、我々が入る30分前から入って、1時間の式典中、非常に集中してやっていたのは、本当に感心しました。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

では、教育長、お願いします。

教育長

皆さんと重複しないような形でご報告させていただきます。

11月3日ですけれども、隣の警察大学校の跡地の工事が大分進捗をしまりまして、あそこには三つの大学の誘致が予定されています。明治大学と早稲田大学と帝京平成大学で、帝京平成大学の起工式というのが3日にありまして、区長、副区長と関連の部長と一緒に参加をしました。今、帝京平成大学というのは千葉の市原市のほうにあるのだそうですけれども、昨年、池袋に池袋キャンパスを開設して、東京に二つ目のキャンパスが中野キャンパスということで、平成25年4月に開学予定ということです。もうその時点では市



原のほうはほとんどないみたいな感じなのですけれども。中野には、薬学部と、それから、最近横文字の名前が多いのでちょっと忘れてしまったのですけれども、医療・看護系の学部と、福祉系の学部の一部が入る予定で、開設当初は2,000人規模の予定で、将来的には4,000人の学生を要するというような学部だそうです。場所は、警察大学校の跡でも一番杉並区寄りの西の端のほうのところになるのですけれども、池袋のキャンパスでも地域連携とか学校ボランティアに学生さんが行かれるということで、私も「近くに中央中と九中の統合新校の学校ができる」という話をしまして、学長さんも「ぜひ中野区の教育にもいろいろご協力したい」というお話がありましたので、こちらの統合新校は平成26年の開設になりますけれども、そうした大学との関係が受けやすい中学校になるのだなということを改めて認識しました。帝京平成大学の南側には、まだ学部は決まっていなようですけれども、明治大学が来るということですので、そういう意味では、中野区内の中学校としてはこれから恵まれた中学校になるなというような感想を持たせていただいたところです。

それから、昨日11月4日は、中野区の中に退職された校長先生の会で中芯会というのと東京都退職校長会中野支部という団体があるのですけれども、毎年定期的に区長と教育長との懇談をされているのだそうで、私は初めてだったのですが、2時間ほどお話しさせていただきました。区長のほうからは、今、中野区を取り巻く情勢というのは非常に厳しい状況があると。それは教育にかかわらない、中野区全体の話をしていましたのと、教育委員会をお願いをしていることとして、学力と体力の向上を期待しているということと、規範意識の醸成ということを常々お話をしているのですよということを書いていただいたのと、あと、再編計画を進めているわけですが、再編によって新しく生まれた学校がそれぞれ地域の新しい期待を担って、学校自体も非常に頑張っているというようなことで、これからもそうした小規模校の解消という観点から再編については進めたいのだというお話を区長からされておりました。

私のほうからは、今、たまたま教育ビジョンの改定をしまして、終盤にかかっているのですけれども、区民の方々にご説明をした素案の段階、7月に策定をしました素案で、学校教育中心のところでご説明をさせていただいたところです。校長先生をご経験の方ですから、今の状況はよくご認識をされているわけです。いろいろご質問はあったのですが、中でも、自分たちの経験を地域の中に活かして今の学校教育の向上に自分たちも少しでも寄与したいのだけれども、そういう受け皿というか受けとめの機会がなかなかないので何とかならないかというようなお話がありましたので、教育委員会として、学校ボランティ

アの仕組みも来年度以降つくっていきたいので、その中でまた改めてこの二つの団体にはお声をかけさせていただきますというお話をさせていただいたところです。

私のほうからは以上です。

飛鳥馬委員長

それでは、各委員から報告がありましたけれども、質問等ございましたらお願いします。

高木委員

山田委員から、神明小学校の研究発表会ですか、鉄棒が苦手というお話がありました。私の子どもは今、小学校6年生と小学校2年生なのですが、上の子は逆上がりができませんし、前回りもちょっと怪しいのです。下の子はサッカーをよくやっていますので、前回はできるみたいなのですが、逆上がりがまだ練習中なのですね。自分の子どものころを考えてみると、本当は登ってはいけないのですけれども、公園で木に登ったりしていましたが、よく考えてみると、最近の子はそういうことを余りやっていない。あと、小学校へ行くと、鉄棒はあるのですが、例えば登り棒とか雲梯というものは余りないですよ。そういう遊具が危険だということで撤去されたのでしょうか。丸山小学校はたしか登り棒はあったと思うのです。子どものころ、幼稚園、小学校低学年でぶら下がるという経験をしない。そうすると、やはりできないですね。そういうのがあるのかなという気がしました。

山田委員

今でも、鉄棒ですと、小学校だと逆上がり、中学校だとけ上がりですか。

指導室長

おっしゃるとおりです。小学校では逆上がり、それから、け上がりもやりますし、中学校は施設が余り十分でないので、なかなかできていないところがあると思いますけれども。高木委員がおっしゃったように、子どもたちがふだんから自分の体を支える経験がないので、手を離してしまうとか、回転するというのもそうなのですから、その経験が全部きいてくるというのでしょうか。鉄棒だけをやっても実はだめで、小さいときに回転したり、支えてもらって自分の体が宙に浮いている感覚を養うということが実は必要だと言われています。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょうか。

山田委員

これは乳児の健診で、90カ月健診。「自分で立てますか」とか。要するにつかまり立ちです。ね。「伝い歩きはどうか」と。時々、いわゆるはいはいが余りできないのに立ち上がってしまう。本来は、人間というのはお座りができて、その後は体が前に倒れていって、後ろにずりばいをするのです。それからだんだんとお尻が上がって、はいはいになって、続いて、よじ登っていく。それで、つかまり立ちができるようになる。今の住宅事情もあるのですね。そのスペースが余りないとすると、特にすぐに歩行器などに頼ってしまったりする。本当は、子どもの発達というのはそういった順序立てがあって、そのずりばいができたり、高ばいできていって、自分でバランスがとれるようになってきて立ち上がる。この過程が大切なので、どうもそれが少し弱いお子さんが見受けられます。そうすると、今、室長がおっしゃったように、転ぶときに手がつかないとか。これは9カ月健診のときに、パラシュートと言って、手がつかどうか診るのですけれども、それが少し遅い子がいる。そういった人間の本能的な神経学的な反応というのが少し遅くなっているようなことが、将来の子どもたちの発達の段階の中で、自分を支えとか、バランスをとることが少しおろそかになってしまう。この辺は非常に心配なことで、何か取り組みをしなければいけないのかなということではないかと思えます。

きょうは、たまたま配付物の中の「幼児教育センターだより」で、身体能力測定をやっていますと。こういった取り組みを小さいころからどんどんやっていかないと、ここに書いてあるように、でんぐり返しをしたときに、ばたんで終わってしまうのではなくて次の姿勢がとれる。次も前かがみになって起き上がるということができるとか、そういった基本的な動作をいろいろな場でやっていかないと、けがが多くなるというのはそういうことからくるのではないかなと思えます。

高木委員

今、山田委員からでんぐり返しのお話もありましたが、私も小さいころは、意味もなくでんぐり返しをよくやったかなと。畳の部屋に布団を敷いてあると、子どもはやるのです。ただ、最近は、皆さんフローリングでベッドなのです。そうすると、でんぐり返しではなくて、ベッドでジャンプするだけなのです。これは全然意味がない。ただ、それを変えようと思ってももうできませんから、そういう生活習慣が変わったというのが大きな影響があるのかなと思えます。

大島委員

単なる感想なのですけれども。

鉄棒というか、ぶら下がるという経験が今少なくなっているというお話ですが。私の子どものころは、放課後はドッジボールをやったりとか、ゴム縄と言って、ゴムを木の幹のところに、一方でだれかが持っていて、そこを跳ぶとか、よくやっていたし、縄跳びなども、自分1人でやったり、友達と複数でやったりとか、毎日やっていたのですけれども、今、そういう遊びもやらなくなっているようです。例えば木登りもそうですし、走るとか、ボールを投げるとか、ジャンプするとか、いろいろなことで体を動かすことで筋肉が造成されていくのだと思うのですが、そういう機会が少ないと、今の子は人間としての必要な筋肉がちゃんとつくのだろうかというようなことも素人ながら心配になったりするのはです。学校で体育の授業をやるだけではなかなか追いつかない面も多いと思いますし、どうしたものかなと思っているところです。

飛鳥馬委員長

いろいろご意見はあると思いますが。歩いたと喜んでいるばかりではなくて、はいはいをさせないといけないそうです。

ほかはよろしいですか。

私は、ことし連合運動会等を見ていてちょっと気がついたことは、一つは、非常に若い先生が多くなっているということですね。全員がここ2、3年に採用された先生かなと。その先生たちが全員参加しているのではないのですが、グラウンドでいろいろ仕事をしている先生は若い先生が非常に目立ったということです。その若い先生は、仕事ではあるのですけれども、運動会ですから、何か取りに行ったり、ラインを引いたり、ちょっとした用事でももたもた歩かないでちゃんと走るという、その辺が非常に印象的でした。年をとるとなかなか走れませんので。時間があっても、そうやってくれると、何となくうきうきしますね。子どもにもいいのだらうと思いますので、非常に好感が持てたというのが一点です。

もう一点は、皆さんもごらんになったと思うのですけれども、私が行った会場に、元教育委員をやっていた、元校長先生の方が会場に来て、スターターの前で指導しているのです。「よし、今のはこうだよ」とか、サインを出しているのです。すごいなと思いました。小学校の体育の先生でも体育学部とか専門の先生は少ないと思うので、スタートをやれるという先生は少ないと思うのです。中学校の体育先生でも、陸上をやってきた先生ばかりではないです。ですから、そういう機会でないとなら教えてもらえないわけです。スタートのやり方というのは、特別講師を呼んでやるわけではないので、そういう場所で、1人だけ

かが身につけると、それがまた伝わるのではないかという気もしますので、ああいう先輩の経験ある先生の指導というのは非常に大事だなというふうに感激して、お礼を言っておきました。

ということを二つ感じました。

それでは、あと質問がないようでしたら、事務局報告に移ります。

<事務局報告事項>

飛鳥馬委員長

事務局から報告はございますか。

事務局

ございません。

飛鳥馬委員長

それでは、以上で本日の日程を終了しました。

これをもちまして、教育委員会第33回定例会を閉じます。ご苦労さまでした。

午前10時59分閉会